

巻頭言

飛躍の年に！  
「新たな旅立ち・大いなる成長を迎える春」に際して

理事長就任式

ご挨拶

勝田 啓示 4  
佐久間 聖 5  
原田 嘉中 6  
内田 茂男 8

学部紹介 — 政策情報学部 —

その先の政策情報学部へ  
〔卒業生寄稿〕 大学で学び、今へ

大矢 野潤 10  
嶋田 比呂美 17  
三輪 芳華 18

私の原点

学部紹介 — サービス創造学部 —

学部開設10周年。「十年ひと昔」を念頭に、  
これからも深化を止めません。

今井 重男 20

サービス創造学部における

学生プロジェクトの特徴と今後の展開について

松本 大吾 23  
布村 沙耶 26  
荻久保 翼 27

〔卒業生寄稿〕 サービス創造学部での出会いが仕事に  
なりたいたい自分を見つけた場所

教育改革の取り組みを紹介

本学の教育力及びブランド力向上の取り組み  
〔授業時間105分化の趣旨とアクティブラーニングの定義〕

永井 克昇 29

学生のPC必携化に伴う教育の充実

All Roads Lead to 「me R AI」.

柏木 将宏 32

— オフラインマッチングサイト「me R AI」とともに進化する千葉商科大学の就職支援 —

意志あるところに道は開ける

川 瀬 功 36  
佐藤 千枝 42

本部からの報告

第11回ホームカミングデー開催

第50期定期総会

第10回「会員交流会」

支部長会からの報告

「懐かしき思い出工房」開催報告

支部からの報告

広報・IT委員会

52 48 47 46 45 45 45

特集 1

今井 重男 20

特集 2

永井 克昇 29

特集 3

川 瀬 功 36

活躍する卒業生

佐藤 千枝 42

同窓会活動

支部からの報告

|                        |  |                                 |                 |
|------------------------|--|---------------------------------|-----------------|
| 随筆                     | <p>同期会からの報告<br/>その他瑞穂会・OB会・特定団体からの報告<br/>卒業生のお宿・お店紹介「静流閣」<br/>バルコニーからみる情景<br/>車椅子での教員生活</p>  | <p>武田 實<br/>星野 喜宏<br/>鎌田 光宣</p> | <p>68 63 58</p> |
| CUC経営者会議               | <p>CUC経営者会議ニュース</p>  | <p>教育後援会</p>                    | <p>73</p>       |
| 教育後援会活動                | <p>教育後援会総会報告、CUC保護者会保護者寄稿「旅立つ君へ」</p>   | <p>沢井 仁</p>                     | <p>77 75</p>    |
| ゼミ紹介                   | <p>誇り高き学舎にておもうこと</p>   | <p>清水 喜久</p>                    | <p>78</p>       |
| CUCレポート                | <p>■ ニュース・イベント<br/>瑞穂会が全国大学対抗簿記大会史上初の団体戦9連覇！個人戦1〜7位を独占！<br/>第153回日商簿記検定1級試験に9名が合格！<br/>「商経学部」教員採用試験2次試験に4名が合格！<br/>地球温暖化防止活動環境大臣表彰を受賞<br/>千葉県男女共同参画センターとの覚書締結式、合同研修会を実施<br/>よい仕事おこしフェア実行委員会、城南信用金庫と包括的連携協定を締結<br/>「政策情報学部」プロジェクトシンポジウムを実践<br/>個人・団体合わせて195件が学生表彰に輝く</p> <p>■ 国際センターニュース<br/>CUCサポーターズ募金—学生の海外留学支援— スタート！</p> <p>■ 地域連携推進センターニュース<br/>2020年度履修証明プログラム(CUC市民活動サポートプログラム)のご案内<br/>国府台コンソーシアム第3回フォーラムのご案内<br/>防災講演会(災害危機管理講座)の開催<br/>地域活動推進室(CUCリンクルーム)利用状況</p> <p>■ The University DINING 1ポーター<br/>レトルトカレー発表イベント<br/>SDGsに関する取り組み</p> <p>■ ライブラリーニュース<br/>特集展「示」[ビジネストレンド]<br/>ライティングサポートセンター「卒論対策セミナー」開催 2日間で28名の学生が参加！</p> <p>■ 文化団体・体育会所属各部等の活動状況</p> | <p>橋本 隆子</p>                    | <p>84 84</p>    |
| 著書紹介                   | <p>「消費者意思決定の構造—解釈レベル理論による変容性の解明」<br/>著者：外川 拓</p>   | <p>外川 拓</p>                     | <p>96</p>       |
| ▼第50期同窓会維持会費・華甲会費納入者一覧 | 97   | ▼同窓会支部事務局一覧                     | 102             |
| ▼編集後記                  | 104  |                                 |                 |

# 飛躍の年に！

## 勝田 啓示

● 千葉商科大学同窓会会長  
(昭34商)



新しい気持ちで令和2年を迎えた。元年が昨年5月からだったので改めて令和という時代の重さを感じる。

大学は第2期中期経営計画(2019～2023)を策定し昨年からはスタートしている。重点施策は変化し続ける社会で建学の精神に基づいた高い倫理観を持った実業家を養成するための「I S T戦略」(情報社会をリードする、国連のSDGsの達成に貢献する、社会に信頼される)ということ、授業でも基盤教育、全学共通科目として「実学の本質」を取り入れている。その成果であろうか、全国大学対抗簿記大会で「9連覇」の偉業を達成した。戦略は着々と浸透しているように思う。

同窓会は今年11月に創立50周年を迎え、これを機に未結成支部の結成、同期会の設立、部活のOB会等の活性化により多くの人に参加していただき基盤を強化し更なる拡大を図りたいと思う。

令和初の卒業生を祝う「卒業祝賀会」は今年から大学、同窓会、教育後援会の共催で行う予定になっている。

社会が著しく変化していく中、大学、同窓会、教育後援会にCUC経営者会議も加わり今後より連携を深めてラグビーの日本代表のようにワンチームになり母校創立100周年に向けての発展に寄与できればと思う。ぜひ飛躍の年にしたいものである。

# 意志あるところに道は開ける

## 佐藤 千枝

東御市議会議員・同窓会長野県支部長  
昭和53年 商経学部経営学科卒業

『意志あるところに道は開ける』。困難な状況でも強い意志さえあれば乗り越えられる、という意味です。決断に迷ったり心が折れそうなときに勇気と希望を与えてくれる言葉でありアメリカ合衆国第16代リンカーン大統領の名言です。「人民の、人民による、人民のための政治」という演説でも有名です。私の座右の銘として、大切にしている言葉です。



### 想定外の台風19号災害

この度台風19号による被害に対しまして、理事長内田茂男様はじめ、学長原科幸彦様、同窓会長勝田政啓様、同窓会副会長櫻田均様、同窓会総会に信州までお越しいただきました副学長榊岡源一郎様、同窓会副会長金子聡訓様他たくさんの方から電報やメール等お見舞いのお言葉をいただきました。この場をお借りしお礼を申し上げます。

す。

今回10月12日に発生しました台風19号により関東地方や甲信地方、東北地方などで記録的な大雨となり、甚大な被害をもたらしました。被災されました皆様にお悔やみとお見舞いを申し上げるとともに、未だ仮設住宅にお住まいの皆様が一日も早く平常な生活に戻られますことを心より願っております。

一級河川千曲川は214 kmにわたって流れ、新潟県に入ると信濃川と呼称が変わります。長野市では河川の水深が最高で9メートルに達し増水した事により、堤防が70 mに渡って決壊し、大量の水が町へ溢れ出て、広範囲で冠水被害が出ています。私の住む東御市でも千曲川に架かる6つの橋が崩落し、国が通常を超える特別の財政援助または助成を行う事を目的とし、国の激甚災害と指定されました。

農業施設におきましても、千曲川に流れる水を農業用水として水路に引き込むために設ける堰や取り入れ口である頭首工の壊滅、河原耕地の水害等が発生しました。

5つの各小学校では、初めて広域避難所が開設され453人の市民が避難されました。想定外の災害に市民も

不安な夜を過ごされたわけですが、初めてのことであり市職員と共に住民も避難所運営に参加できる体制を作ることの大切さも学習させていただきました。また、今後もしも発生するだろう台風の被害に遭わないために、今回の被害を教訓に、自己責任として自らの身は自ら守ることの大切さも改めて感じたとところです。

みんなちがってみんないい

去年11月23日、私ども夫婦はお陰様で結婚40年を迎えました。1つ年上の夫も専攻科は違いますが千葉商科大学の卒業生です。今、日本は世界的にも先を行く少子超高齢多死社会を迎え、ますます高齢者が増える中で、夫は高齢者福祉のエキスパートとして現役で働いております。本学を卒業したところは、人間社会学部はありませんでしたので、社会福祉士の資格を取得しながら、これまで社会福祉事業に携わってまいりました。これまで40年にわたる社会福祉事業の功績が認められ、11月には厚生労働大臣賞を、12月には長野県知事賞をいただきました。現在の我が家は夫とダウン症と脳性麻痺の合併症を持つ27歳の息子と3人で暮らしています。少し息子のこと

をお話ししましょう。

息子は未熟児で出産したこともあり、視力や聴力にハンディがあります。また産道を通る際、仮死状態で生まれたため、脳性麻痺もあり重複障がい者です。生後5か月になっても首のすわりも遅く、『こういう子は歩行も一生無理』とドクターから断言されました。声は出せても、いわゆる言葉は話せません。私自身、産後の体力も回復しない状況で落ち込んだ時期もありました。しかし、わが子が牛歩のごとくすこしづつ着実に成長していく姿を見て『私たち夫婦がこの子をしっかりと支えずして、誰がしてくれるのだろう。障がいがあっても普通に、そして当たり前に地域社会で生きていけるよう育てよう!』という思いで27年が過ぎました。現在息子は、元気に福祉施設に通いながらほとんど病気をせずに音楽や和太鼓、ダンスなどの余暇活動を楽しんでいます。純白な心を持つ息子の笑顔は家族や周囲を明るくしてくれています。

大正時代末期から昭和時代初期にかけて活躍された女性詩人 金子みすゞの詩の『わたしと小鳥と鈴と』が、子育ての原点です。

『わたしと小鳥と鈴と』

わたしが両手をひろげても、お空はちつとも飛べないが、

飛べる小鳥はわたしのように、地面(じべた)をはやくは走れない。

わたしがからだをゆすつても、きれいな音は出ないけど、

あの鳴る鈴はわたしのように、たくさんうたは知らないよ。

鈴と、小鳥と、それからわたし、みんなちがつて、みんないい。

みんな違って、みんなが素晴らしいのです! ありのままの自分を好きになり自分の強みを誰かのために、自分の弱みを誰かに助けてもらいながら、そうやって楽しく、笑って、生きていきたいものです!

個々の多様性を互いに認め合い、さまざまな人々の能力が発揮され活力ある社会の実現にむけてこれからも歩んでいきます。